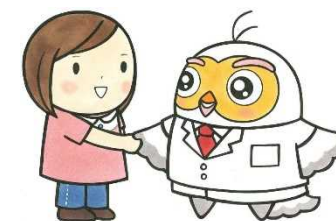


土地家屋調査士会ADRセンターの取扱いの現状

資料 3

土地家屋調査士は、不動産の表示に関する登記及び土地の筆界を明らかにする業務の専門家
全国50会にセンター設立(内認証取得25会)、取り扱う紛争＝土地の境界に起因する民事に関する紛争

- 1 客観的資料と対話のハイブリット
- 2 筆界特定との効果的な連携(法務省)
- 3 オンライン相談・オンライン調停への取り組み
高齢化問題、空き家・空き地問題、所有者不明土地問題



広報キャラクター「地識くん」

全国の土地家屋調査士会ADRセンターの相談・調停件数(平成22年度～令和元年度) (単位: 件)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
電話相談									1,771	1,549
相談	887	941	1,092	724	653	637	688	713	115	377
調停	62	45	52	61	54	56	66	38	53	44

筆界特定事件の申請件数の推移(平成18年～30年)

平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
2,790	2,690	2,492	2,579	2,302	2,326	2,439	2,351	2,684	2,601	2,619	2,806	2,361

(出典 土地家屋調査士白書2020から抜粋)

境界(筆界)に関する訴えの件数推移(平成8年～10年、平成19年～30年)

平成8年	平成9年	平成10年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
810	833	761	394	405	408	414	409	408	420	395	407	367	347	331

(出典 土地家屋調査士白書2020から抜粋)



土地家屋調査士会 ADRセンターにおける執行力に関する意見

司法法制部アンケート(50会中37会が回答)

- 1 履行確保の点に不安があることが、ADRを選択されない理由と感じた経験があるか
・あった 5会 ・なかった 15会 ・不明・無回答 17会
- 2 和解成立後に金銭給付等の履行を約束する内容の和解条項を作成したか
・あった 10会 ・なかった 20会 ・不明・無回答 7会
- 3 執行力が付与された場合、受理件数にどのような変化があるか
・増える 9会 ・変わらない 15会 ・不明・無回答 13会
- 4 執行力を付与することについて、考えに近いものはどれか
・無条件で付与することに賛成 3会
・一定の条件のもと付与することに賛成 25会(双方の合意16会、ADR機関の選択5会)
・付与することに反対 7会(ADRになじまない6会、話し合いのプロセスを重視、調停員の能力担保)



広報キャラクター「地識くん」